

## テーマ 今後のJOF C運営体制について

### 【経緯】

2016年名古屋総会開催時に10周年記念開催にこだわらないことと、JOF C設立10年を経過したことで今後の運営方法やこれからのJOF Cの在り方など見直すべく幹事会を開催して検討することとしたが改善取り組みが具体的となっていないのが現状、JOF Cの今後の在り方は、この機会に重要なのでさらに検討を進めることとした。各クラブに意見として、毎年総会を開催することについて、地方オーケストラを聴く好機であり、会員も参加を楽しみにしている、このような総会・交流会・演奏会の開催は大きな意味があると思っている。（多数意見）

2019年JOF C札幌開催を契機にこの問題について触れることとした。開催に先立って、山響FC加藤さんから運営体制についても見直す時期であるとの認識もあり、あらためて提起した経緯がある。

### 【問題意識】

- ・この12年を振り返り、JOF C活動の意味を再確認する必要がある
- ・長期化している運営体制について見直しも必要と思われる。

### 【JOF Cの持つ意味とは？】

JOF C総会を開催することについての意義と加盟団体各地で開催することについて、再確認をする必要があり、今後の運営体制にも重要なこととして考える。

- ・オーケストラファンクラブのあるべき姿を追求するために全国のファンクラブを結集し、意見交換や交流会を行うことによって真の取り組みに触れ、ファンクラブとしての進化が期待できる。
- ・芸術・文化が軸となる社会環境創造を推し進めるために全国が手をつなぐ必要があること。
- ・実際に加盟団体を訪問し肌で体験し、各地方オーケストラを聴く楽しみであり、アートツーリズムとなっている。
- ・何より全国との交流によって刺激を受け人的な交流へと発展していること。

### 【具体的な提案にあたって】

以上のことを前提として、今後のJOF Cの在り方について考えてみる。

- ・JOF Cの持つ意味の追求は不変と思う、したがってJOF C継続は不可欠（継続）
- ・2019年初めて総会をしない「交流会」開催が今後の拡大や展開につながる（交流会方式採用）
- ・広島Fの例にもあるように、ファンクラブ運営そのものを強化する（運営アドヴァイスの必要）
- ・ファンクラブとしての施策事例の展開が必要（事例集まとめ）
- ・役員の刷新も新たな模索に有効（役員の定年制）

### 【役員体制の刷新】

JOF C会長上田文雄（JOF Cの顔であり役員として残ってもらう/会長継続・名誉会長・顧問）

（名誉会長を置く場合は会則第5条、第6条または第11条の改正が必要になります。）

JOF C新会長候補 群響F小野さん、山響FC加藤さん、SPC長島さん

JOF C副会長新任 西川吉武 武藤義典（アドヴァイザーとして）

（第7条 会長及び副会長は、各クラブの代表者の中から総会において選出する。）→会則第7条の改正が必要です。

JOF C幹事長 西川吉武 交代、候補として、名古屋山田さん、山形佐藤さん、仙台佐藤さん

JOF C事務局長 武藤義典 交代、候補として、群響石守さん、山響保科さん、仙台佐藤さん

第8条 本会に事務局を置く。

2 事務局に事務局長を置き、会長の属するクラブの事務局長に相当するものをもって充て、本会の事務を処理する。

↑会則第8条第2項の改正が必要になります。

運営については十分なノウハウも蓄積していること、JOF Cが自由な環境下であり誰でもバックアップが可能なこと。会長以外はどなたでも担当できると考えています。

### 【その他（SPC長島会長）】

- ・JOF C仙台大会の日程について
- ・JOF CHPを日本フィルの所沢支部のHPへリンクを張らせてほしいとの申し出について